様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：１３６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３７０１３０

研究課題名（和文）J. McN.ホイッスラーと二人のパトロンの日本美術コレクションに関する調査研究

研究課題名（英文）Resrach on J. McN. Whistler and his two patrons focused on their Japanese art collections

研究代表者
小野　文子（ONO, Ayako）

信州大学・学術研究院教育学系・准教授

研究者番号：１０３７７６１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、画家とパトロンの日本趣味に関わる相互の影響関係について、J.McN.ホイッスラーと彼の二人のパトロンを中心として調査を行った。ホイッスラー の初期のパトロンであったW.C. アレクサンダー、そして後期のパトロンであったC.L.フリーアは、ホイッスラーの作品を収集しただけでなく、日本を含む東洋美術の一大コレクションを築いたことで知られている。結果として、アレクサンダーの日本美術のコレクションはホイッスラーの作品制作に影響を与え、一方で、フリーアはホイッスラーのジャポニスム作品から東西の「美の普遍性」という示唆を得て、そのことを体現する美術コレクションを築き上げたことが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：This research investigates the mutual influence of painter and patron on each other in Japanese art, focusing on J. McN. Whistler and his two patrons, a wealthy banker, William Cleverly Alexander and Detroit industrialist and founder of the Freer Gallery of Art, Charles Lang Freer. It is known that Whistler’s patrons, first W. C. Alexander and later C.L. Freer, collected not only Whistler’s works but also Oriental art from various places including Japan. Alexander’s Japanese art collection influenced Whistler’s work while Whistler’s Japonisme helped to shape Freer’s understanding of the “universality of beauty” in the east and west and thus his extensive collection of art work from around the world.

研究分野：美術史

キーワード：パトロン　ジャポニスム　日本美術コレクション　J. McN.ホイッスラー　東西交流

１．研究開始当初の背景

アメリカ人の画家 J.McN.ホイッスラーは、イギリスの唯美主義を牽引した画家として知られているが、彼は日本美術からインスピレーションを得て作品を制作したジャポニスムの画家でもあった。これまで、19 世紀後半のイギリスにおけるジャポニスムの中心的存在であったホイッスラーについて、作品論、東西交流という視点から研究を行ってきた。特に、19 世紀半ばから後半にかけて、ホイッスラーがどのような場所で、また誰を介して日本美術を目にすることができたのか、画家を取り巻く周辺環境を明らかにし、また彼のジャポニスムの伝播について研究を積み重ねてきた。研究の過程で、彼の初期のパトロン W.C.アレクサンダーと後期のパトロン C.L.フリーアの日本美術コレクションに注目した。アレクサンダーとフリーアは、ホイッスラーのパトロンというだけでなく、東洋美術の一大コレクションを築いたコレクターとしても知られている。アレクサンダーの日本美術のコレクションはホイッスラーのジャポニスムに影響を与えたことが考えられ、一方で、フリーアは画家からの勧めで日本を含めた東洋の美術品を収集した。こうした研究を背景として、本研究では、アレクサンダーの日本趣味がどのような影響をホイッスラーに与え、そしてその画家の日本趣味が次の世代のパトロンであるフリーアにどのような示唆を与えたのかを明らかにすることとした。

２．研究の目的

本研究の目的は、パトロンとその美術コレクションという視点から、ホイッスラーのジャポニスムとその広がりについて新たな知見を得ると同時に、ジャポニスムの時代（およそ 1860 年代～1910 年代と設定する）の日本美術コレクションについて多角的に研究を深めることである。更に、ジャポニスムの時代の初期のパトロンから、画家の日本趣味を通して、次の世代のパトロンに継承された日本趣味の傾向や本質について明らかにする。本研究の目的の学術的な特色は、美術館や美術史研究において「日本美術」や「東洋美術」といった縦割りによって管理され、研究がおこなわれてきたことで、これまで見出すことのできなかったジャポニスムの時代の日本美術コレクションとジャポニスムの作品の関連性について、パトロンと画家という横の軸に着目し、新たな視点からジャポニスムやその広がりについての実態を明らかにすることにある。

３．研究の方法

本研究では、W.C.アレクサンダーの日本美術コレクションに関する資料・作品調査をロンドンの V&A、V&A アーカイブ、そして大英博物館で行う。また、アレクサンダーやホイッスラーの日本美術収集に関わり、時には日本美術について助言もしたという美術商、マリー・マークスに関連する資料・作品調査を V&A、V&A アーカイブで行う。C.L.フリーア関連の資料・作品については、ワシントン DC のフリーア美術館、同美術館のアーカイブで調査を行う。概要は以下のとおりである。

① ヴィクトリア&アルバート博物館（以下 V&A）に所蔵されているアレクサンダーの日本美術レクションを中心とした調査。また、V&A アーカイブに所蔵されているアレクサンダー・コレクションの寄贈に関わる資料を調査し、コレクションや寄贈の経緯について明らかにする。

② 大英博物館に寄贈されたアレクサンダーの浮世絵コレクションについて調査を行い、ホイッスラーのジャポニスムという視点から、ジャポニスムと同時代の浮世絵コレクションの特質を明らかにする。また、同博物館において、寄贈の経緯に関わる資料を調査する。

③ 美術商マリー・マークスに関わる資料を V&A アーカイブで調査し、日本美術をめぐる画家とパトロンの関係を、美術商との繋がりという視点から明らかにする。主に、V&A がマークスから購入した美術品について調査する。

④ ワシントン DC のフリーア美術館において、フリーアの日本美術コレクションを調査し、ホイッスラーがフリーアの日本美術収集に与えた影響を明らかにする。

⑤フリーア美術館のアーカイブにおいて、未解読の書簡、特にホイッスラーとの共通する人物、例えば金子堅太郎や執行弘道、ジークフリート・ビングの書簡を調査することで、コレクションにまつわる歴史的背景を明らかにする。

４．研究成果

① V&A に所蔵されているアレクサンダーの日本美術レクションに関する調査を行った。所蔵作品数が 5,000 点以上あり、V&A においても未だ全ての作品を整理できていない状況にあり、また、各ジャンルによって担当学芸員が異なることから、すべての作品を博物館で実見することは困難であった。そこで、データ・ベース化されている作品目録と美術館が撮影済みの画像を照合することで、ホイッスラーの作品に実際に影響を与えた浮世絵作品等を複数確認した。また、V&A アーカイブに所蔵されているアレクサンダー・コレクションの寄贈に関わる資料を調査し、寄贈

者がアレクサンダーの娘たちであることや、寄贈当時には、すでに日本美術作品は二束三文の物としてとして遺族に認識されていたことから、売却ではなく、寄贈という方法で博物館に収められたことなどが明らかとなった。

② 大英博物館に寄贈されたアレクサンダーの浮世絵コレクションについての調査では、アレクサンダー自身が生前に自ら博物館に寄贈したことが分かった。その多くは、北斎と広重による作品であり、ホイッスラーの銅版画や初期の油彩画に影響を与えたと推測されるものが多数であった。アレクサンダーの没後に V&A に寄贈された日本美術と、アレクサンダー自らが生前に選んで博物館に寄贈した作品には、質的に多少の違いが認められた。つまり、アレクサンダー自身が寄贈した作品は、コレクターの好みを示す「傾向」が認められ、このことは、ホイッスラーとの「趣味の共有」を示しているという結論に至った。

③ 美術商マリー・マークスは、ジャポニスムの流行に先駆けて、イギリスにおいて最も早い時期に東洋の品々を輸入し、アレクサンダーやホイッスラーの日本美術収集に大きく関わった。マークスに由来する美術作品が V&A に多く所蔵されていることから、V&A 所蔵の美術作品、また寄贈に関わる資料を V&A アーカイブで調査した。本調査を行うことで、日本美術をめぐる画家とパトロンの関係を、美術商との繋がりという視点から明らかにすることが可能であると考えたからである。しかしながら、V&A 及び V&A アーカイブでの調査の結果、マークスに由来する美術作品の中に日本美術は含まれておらず、アーカイブにおけるマークス関連のファイルには、日本美術に関する記述を見出すことはできなかった。従って、コレクターや画家たちに多くの日本美術作品を売りさばいたとされるマークスは、時代の潮流を敏感に読み取りながら日本美術と関わっていたと考えられる。

④ フリーア美術館において、フリーアの日本美術コレクションを調査した結果、フリーアの日本美術コレクションの中に、ホイッスラーの作品との調和を考えて収集したと推測されるものを多数確認した。一方で、ホイッスラーがインスピレーションを得たと考えられる北斎や広重などの浮世絵版画作品は、フリーアの日本美術コレクションに含まれていないことが分かった。このことから、フリーアはホイッスラーの作品の表現に見出される浮世絵を「源泉」を求めて日本の美術作品をコレクションしたのではなく、ホイッスラーの作品と「調和」することを主眼として収集したことが明らかとなった。

⑤ フリーア美術館のアーカイブにおいて、未解読の書簡、特にホイッスラーと共通する人物、例えば金子堅太郎や執行弘道、ジークフリート・ビングの書簡を中心に調査を行った。調査の結果、ホイッスラーとフリーアを取り巻く日本人やジャポニストとの関わりが明らかとなった。こうした周辺関係を調査することにより、アレクサンダーとフリーアの日本美術コレクション形成の環境や条件の違いが浮き彫りとなった。書簡の読解を中心とした人的交流を含めた周辺事情の調査、パトロンたちの日本美術コレクションの全体像の把握は、本研究の目的である、世代間、国境を越えた日本趣味の共有のルートを縦横の軸から吟味することを可能とした。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

① 小野　文子、「J. McN.ホイッスラーのジャポニスムを出発点とした美の普遍性と融合」、『美術教育学研究』、大学美術教育学会、査読有、49 号、2017、97－104
② 小野　文子、「対西洋としての日本画の創出」、『大学美術教育研究』、大学美術教育学会、査読有、48 号、2016、129－136
③ 小野　文子、「Ｊ．ＭｃＮ．ホイッスラーのジャポニスムとその広がり　パトロンとの関わりを中心として」、『ジャポニスム研究』、ジャポニスム学会、査読無、34 号（別冊）、2015、16－23
④ 小野　文子、「ホイッスラーのジャポニスムとその広がり」、『ホイッスラー展』（展覧会図録）、NHK、NHK プロモーション、査読無、2014、194‐203
⑤ 小野　文子、「ホイッスラーの版画」、『版画芸術』、阿部出版、査読無、No.165、2014、78‐85

〔学会発表〕（計 2 件）

① 小野　文子、「ホイッスラーのジャポニスムとその広がり」、第４回畠山公開シンポジウム『ジャポニスムの全貌～ホイッスラーから何が始まったのか』、ジャポニスム学会、京都国立近代美術館、2014 年 10 月 4 日
② Ayako Ono, ‘Whistler and Modernity in Japan’, Whistler and Kiyochika Modernity, Melancholy, and the Nocturne, Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery, The Smithsonian Institution, 14 May 2014

〔図書〕（計１件）

① 小野　文子、『ホイッスラー展』（展覧会図録）、NHK、NHK プロモーション、2014（図録監修・編集・翻訳・作品解説・章解説・コラム執筆）

６．研究組織
(1)研究代表者
小野　文子（ONO, Ayako）
信州大学・学術研究院教育学系・准教授
研究者番号：１０３７７６１６